

<p>広島シンガポール協会会報 No.21</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.22</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.23</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.24</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.25</p>
<p>広島シンガポール協会会報 No.26</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.27</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.28</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.29</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.30</p>
<p>広島シンガポール協会会報 No.31</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.32</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.33</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.34</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.35</p>
<p>広島シンガポール協会会報 No.36</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.37</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.38</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.39</p>	<p>広島シンガポール協会会報 No.40</p>

(広島シンガポール協会会報誌「第21号」～「第40号」)



広島シンガポール協会  
会長  
坪井 宏

会員の皆様におかれましては、平素より広島シンガポール協会の活動にご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当協会は、おかげさまで、昨年12月に設立20周年を迎えました。それを記念して開催致しました設立20周年記念式典では、シンガポール共和国大使館ウィリアム・タン首席公使をはじめ、湯崎広島県知事、松井広島市長、広島県商工会議所連合会深山会頭ほか、これまでにない多くの方のご参加をいただき、盛大に開催することができました。

「日本語理解研修」と「日本企業体験研修」を2本柱としてスタートした学生交流支援事業も、平成18年には、「日本語成績優秀学生の招待事業」、平成19年には、三原国際外語学院様との合同による「日本語研修留学生奨学金制度」が加わり、今年度より、あらたに「日本語短期研修支援事業」が始まりました。また、シンガポール国立大学、国立シンガポール・ポリテクニック校との交流以外にも、ラッフルズ女子中学生のホームステイ引き受けや、パレスティアヒル中学校へ日本に関する書籍費を贈呈するなど、当協会の活動と交流の輪は着実に広がっております。

本年の3月には、当協会設立当初から運営委員としてご尽力いただいている橋本康男様(公益財団法人広島県地域保健医療推進機構 地域医療支援センター部長)にご講演いただき、広島市の未来に貢献できる協会を目指して会員の皆様と一緒に頑張っていきたいとのメッセージをいただきました。

これからも当協会の活動を通じて、広島とシンガポールとの友好がますます深まるよう、また広島市の発展にも寄与できるよう努力してまいります。引き続き、皆様方の温かいご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



# 広島シンガポール協会

## 設立20周年記念式典・交流会・懇親会の開催

平成27年12月14日(月)、リーガロイヤルホテル広島において、設立20周年記念式典・交流会・懇親会が開催されました。

式典には、来賓としてシンガポール共和国大使館のウィリアム・タン首席公使ならびに湯崎英彦広島県知事、松井一實広島市長および広島県商工会議所連合会深山英樹会頭にご臨席いただきました。

また、シンガポールからのお客様として、シンガポール国立大学のタン・レンレン日本研究学科長および日本理解研修で来日中のシンガポール国立大学生15名と引率教師の田中伊都子先生をお招きし、シンガポール政府観光局からはマーカス・タン北アジア局長、柴田亮平日本支局長をお迎えするなど、会員、同伴者およびホームステイ先のホストファミリーを合わせて439名のご出席をいただき、盛大に執り行われました。



▲ご来賓の皆様とともに

### 広島シンガポール協会

#### 設立20周年記念式典・交流会・懇親会プログラム

1. 日 時 2015年(平成27年)12月14日(月) 18:00~20:15
2. 場 所 リーガロイヤルホテル広島 4階 ロイヤルホール
3. 次 第

#### <設立20周年記念式典>

- (1) 開 会
- (2) 挨拶  
広島シンガポール協会 会長 坪井 宏
- (3) 来賓祝辞  
シンガポール共和国大使館 首席公使 ウィリアム・タン様  
広島県知事 湯崎 英彦様  
広島市長 松井 一實様  
広島県商工会議所連合会 会頭 深山 英樹様
- (4) DVD鑑賞  
「広島シンガポール協会 設立20年を振り返って」
- (5) 来賓祝辞  
シンガポール国立大学 日本研究学科長 タン・レンレン様  
支援金贈呈式  
シンガポール国立大学の学生15名と引率教師  
書籍贈呈式  
ひろしんアドバンスクラブ 会長 三浦 誠様より書籍の贈呈  
(挨拶) 学生代表 マシュー・シアさん  
支援金贈呈式  
シンガポール日本語研修留学生(三原国際外語学院 奨学金制度9期生)  
奨学金贈呈式  
広島陵北ロータリークラブ 会長 川中 敬三様より奨学金の贈呈  
(挨拶) モハメド・ナスル・エクラム・ビン・マクモンさん

#### <交流会・懇親会>

- (1) 来賓紹介  
シンガポール政府観光局 北アジア局長 マーカス・タン様  
シンガポール政府観光局 日本支局長 柴田 亮平様
- (2) 乾 杯  
シンガポール国立大学 日本研究学科長 タン・レンレン様  
< 歓 談 >
- (3) 閉 会

以 上

### 【設立 20 周年記念式典】



▲坪井会長挨拶

坪井会長が挨拶を行い、設立からの20年間で当協会の学生交流プログラムで受け入れた学生は延べ800名を超え、研修に参加した学生の中には、日本企業や日系企業に就職し両国の橋渡し役

として活躍している方も多数おられ、当協会の学生交流事業が意義深いものになっていると実感している。今後も学生交流支援事業をさらに充実・発展させ、両国の友好関係に寄与するよう、そして広島



▲湯崎広島県知事

島の発展にも繋がるよう活動を続けたいと意欲を語りました。続いて、来賓のシンガポール共和国大使館のウィリアム・タン首席公使、湯崎英彦広島県知事、松井一實広島市長、広島県商工会議所連合会深山英樹会頭より、



▲松井広島市長



▲広島県商工会議所連合会  
深山会頭

それぞれご祝辞を頂戴しました。

その後、この記念式典のために作成された、当協会設立から現在までの20年間の活動を紹介します。映像をご覧いただきました。

### 【学生交流支援金贈呈式】



▲タン・レンレン日本研究学科長

支援金贈呈式に先立ち、シンガポール国立大学のタン・レンレン日本研究学科長よりご祝辞を頂戴しました。

その後、学生交流支援金の贈呈式が行われました。この支援金の贈呈は、平成27年度事業計画の学生交流

支援に基づいて実施されるもので、シンガポール国立大学日本理解研修中の学生15名と引率の先生、シンガポール日本語研修留学生奨学金制度第9期生のモハメド・ナスル・エクラム・ビン・マクモンさんに支援金が送られました。



▲シンガポール国立大学への支援金贈呈式

また、シンガポール国立大学の皆さんに、広島信用金庫の取引先若手経営者の会「ひろしんアドバンスクラブ」の三浦誠会長より書籍の贈呈が行われました。この書籍贈呈は当協会10周年記念事業の一環とし



▲ひろしんアドバンスクラブより書籍贈呈

て始まった事業で、贈呈された書籍はシンガポール国立大学に設けられている「広島コーナー」に置かれ、学生の皆さんに広く活用されています。



▲広島陵北ロータリークラブ支援金贈呈式

続いて、当協会の活動にご賛同いただいた広島陵北ロータリークラブ様より当協会に対しご寄付をいただき、川中敬三会長より、三原国際外語学院で学ばれているモハメド・ナスル・エクラム・ビン・マクモンさんに奨学金が贈呈されました。

### 【交流会・懇親会】

交流会・懇親会では、まず、シンガポール政府観光局のマーカス・タン北アジア局長および柴田亮平日本支局長よりご挨拶をいただき、その後、シンガポール国立大学のタン・レンレン日本研究学科長



▲シンガポール政府観光局  
マーカス・タン北アジア局長

の乾杯のご発声で始まりました。

また、シンガポール共和国大使館より、まろやかな口当たりのシンガポールの“タイガービール”も頂戴しました。

今回も多数の会員の方々、関係者の皆様にご出席いただき、終始和やかな雰囲気では終了しました。



▲交流会・懇親会の様子



## 【来賓のご挨拶】

シンガポール共和国大使館 ウィリアム・タン首席公使

広島シンガポール協会の会員数は900名を超え、在日シンガポール友好協会の中で群を抜いており、最大かつ、最も熱心に活動している協会です。また、広島シン



▲ウィリアム・タン首席公使

ガポール協会は広島県で最大の二国間友好交流協会だと存じます。元協会会長の田村鋭治様と前協会会長高木一之様、そして現協会会長の坪井宏様の優れたご指導のもとで、シンガポールと広島の人と人との交流の強化にむけ、計り知れないほどのご貢献をいただきました。これまで、広島シンガポール協会は日系企業での研修やホームステイの機会を850人以上のシンガポールの学生に与えてくださいました。広島シンガポール協会は、定期的にシンガポールへ友好訪問団を送られております。坪井会長様が率いる第11回友好訪問団は、9月にシンガポールを訪れ、シンガポール国立大学と、シンガポール理工学院(国立シンガポール・ポリテクニク校)を訪問されました。そ

の際に、学生交流プログラムのシンガポールの卒業生と対面する機会がございました。また、広島シンガポール協会はシンガポールの様々な面を広島、そして日本の方々に紹介するために、定期的にセミナーを開催されていらっしゃいます。これらの活動のおかげで、二国間の相互理解が深まり、シンガポールと日本の人々の関係が強化されてきました。

交流プログラムへの広島県、および広島市の長年にわたるご支援に対し、この場をお借りして心からお礼申し上げます。また、シンガポールの学生のために貴重な機会を与えてくださった企業の皆様、そしてシンガポールの学生たちをあたたかく、優しく受け入れてくださった広島の皆様にも、心からお礼申し上げます。

シンガポールと日本の二国間関係は素晴らしく、多岐にわたる強固な協力がその証です。来年2016年は、シンガポールと日本の国交樹立50周年記念を迎え、二国間関係にとって節目の年となります。この重要な節目を、友好関係にふさわしい祝賀行事でお祝いできればと存じます。また、広島シンガポール協会と協力して、広島とシンガポールの関係を更なる高みへ引き上げていけることを期待しております。(一部抜粋)

## 国立シンガポール・ポリテクニク校 日本語成績優秀学生の招待

国立シンガポール・ポリテクニク校と広島シンガポール協会との共同事業として行われています「国立シンガポール・ポリテクニク校日本語成績優秀学生の招待事業」を実施しました。これは、国立シンガポール・ポリテクニク校(SP校)と広島工業大学専門学校との交流プログラムとして行われたもので、日本語成績優秀学生の



▲支援金贈呈



▲広島信用金庫本店 来訪

お二人を広島に招待しました。9月28日(月)から10月8日(木)までの期間で、学生達は日本の文化体験や「なぎさ公園小学校」での児童との交流会などを体験されました。

また、2名の学生の他に、10名の学生も本プログラムに参加しており、9月29日(火)には広島信用金庫に訪問いただきました。

## シンガポール国立大学日本理解研修生の受入

学生交流支援の一環として、今年もシンガポール国立大学生15名と田中伊都子先生を受け入れ、研修プログラムの支援を実施しました。12月14日(月)から12月20日(日)までの一週間、ホームステイをしながら、広島市内や宮島、熊野筆製造見学、上田宗箇流和風堂訪問、広島市立大学の授業への参加等を通して、日本理解研修を行いました。



▲広島信用金庫 表敬訪問

ホストファミリーとして当協会会員様、ヒッポファミリークラブ西日本様のご協力のもと、14家庭でお世話になりました。

今回の研修で初めて日本を訪れた学生も多く、最初は文化や言葉の違いに不安を感じていましたが、観光やホストファミリーのご家族と一緒に時間を過ごすうちにその不安も解消され、非常に充実した研修となりました。



▲宮島・厳島神社において



▲広島市立大学にて



▲熊野にて



▲お好み焼き体験の様子

平成27年度

## 「国際交流・協力の日」に参加

11月15日(日)に広島国際会議場、平和記念公園を中心として開催された平成27年度「国際交流・協力の日」に参加しました。

本事業は、(公財)広島平和文化センターが主催し、主に広島市内で国際交流・協力活動を続けている市民団体・企業などが中心となって平成12年度から毎年開催しているイベントで、「学び」を基調とした様々な国際交流・協力に関する事業を紹介しています。

当日、広島シンガポール協会は、企業の「国際交流・協力活動」紹介コーナーにおいて、活動紹介パネル展示、ビデオ放映、会報誌やガイド

ブックの配布などを行い、来場者に活動状況について広く知っていただきました。





## 講演会の開催

平成28年3月7日(月)、リーガロイヤルホテル広島において、本年度最後の行事となる講演会が開催されました。

広島県と広島商工会議所などが海外情報収集を目的に1991年に設置したシンガポール広島事務所の初代所長であり、当協会設立当初より運営委員としてご尽力いただいている橋本康男氏((公財)広島県地域保健医療推進機構 地域医療支援センター部長, 元広島県国際部長)を講師にお迎えし、「広島シンガポール協会の20年～広島の多様性・ビジョン・行動力へ～」と題し、ご講演いただきました。



### 1. シンガポールの発展

シンガポールは、東南アジアのマレー半島先端に位置し、広島市より小さな面積(約720平方km)の国土に約550万人(広島県の人口の約2倍)の人々が暮らす。1965年にマレーシアから分離独立し、昨年建国50年を迎えた同国は、中国系、マレー系、インド系など、多様な人種や文化が混在する国であり、英語、中国語、マレー語、タミール語の4つの公用語が飛び交う多民族国家である。

広島市より小さな面積の国が世界トップクラスの空港と港を有し、一人当たりGDP(一人当たりの豊かさ)は、建国50年で500ドルから5万ドルへと増加した。シンガポール広島事務所が開設された1991年には一人当たりGDPは、日本がシンガポールの2倍であったが、2007年にシンガポールが日本を上回り、現在ではシンガポールが日本の約1.5倍となるなど急速な経済成長を遂げている。フィリピンとシンガポールの一人当たりGDPの差は1.7倍だったが、現在では約20倍に開いている。

このようなシンガポールの成功の理由について、初代首相のリー・クアンユー氏は、「クリーンで効率的な政府」、「ビジョンと行動力」、「ハードワークと強力で強い意志のリーダーシップ」、「賢明な経済政策」、「政治的安定性」、そして「儉約と学びを奨励する文化」を挙げている。また、何より大切なのは、貧しい家に生まれても頑張ればチャンスはあるという「社会的移動の可能性」であるとし、それを阻む汚職の防止に全力で取り組んだ。

年間を通じて高温、多湿な気候であるシンガポールは、「クリーン&グリーン」のガーデンシティとしてもよく知られている。このような都市緑化政策は、赤道直下、常夏の国シンガポールを発展させるためには先進国から投資を呼び込む必要があり、そのためには快適な生活環境を作らなければならないという明確なビジョンのもと、独立当初から、全て計画的に取り組まれてきたものである。緑化関係の予算の6割はメンテナンスに使用され、徹底した維持管理が行われていることから、その強い意志がうかがえる。

また、公的医療制度や公的年金のない(注)シンガポールでは、住宅取得や医療、教育など特定の用途にのみ使用が認められ、雇用者と被雇用者それぞれが定められた比率の積立を行う政府管理の強制貯蓄制度であるCPF(中央積立基金)制度を採用している。この政策により、住宅建設などシンガポールの公共投資が短期間のうちに進み、一気に近代化を推し進めた。(注2015年から公的医療保険制度が導入された。)

国土が小さく、高温、多湿で決して過ごしやすいといえる環境ではない国が、建国50年でこのように急速な発展を遂げたのは、前述の都市緑化政策にも見られるように、明確なビジョンを持ち、一つひとつ具体的にかつ継続的に行動し努力を続けた結果であろう。私は、「常に未来を見つめ、『張り』を持って挑戦を続ける」シンガポールの姿を感じた。57階建て200mの高さのホテルの上に幅150mのプールを造り、シンガポールの新たな象徴となった「マリーナ・ベイ・サンズ」も、このように挑戦し続けるシンガポールだからこそ造ることができたと感じる。

### 2. シンガポールとの学生交流ー広島の変化をめざしてー

シンガポール広島事務所長として現地に赴任して感じたことは、「よそ者に優しい社会」であるということ。シンガポールは多民族国家であることから、日常的に多様性を受け入れ違いを認め尊重する社会であった。25年前の駐在時には、インターネットもなく海外情報の収集が容易ではなかったために、広島からの訪問者の中には「全

部、絶対、みんな」といった単純化、決めつけ、思い込みで話をされる方もいたように思う。しかし、私は先入観なく柔軟な感性を持つ大切さや、「ビジョン、多様性、ダイナミズム」、つまり、何をやるかの前に何をを目指すのかを考え、「こうしたらいいのだ」という解説だけでなく変化を生み出す実際の行動の大切さを感じた。

このような自分自身の経験から、広島の若者に世界の多様性に触れる機会を提供し、グローバルな感覚を身に付けてもらいたいと考え、経済交流事務所でありながら学生交流をスタートさせた。

広島シンガポール協会は、現在、シンガポール国立大学と国立シンガポール・ポリテクニク校の2校と学生交流を行っており、1995年の協会発足からの20年間で受け入れた学生数は、ホームステイ631名、企業体験研修214名、日本語研修10名の延べ855名にのぼる。各プログラムとも協会から若干の資金支援は行っているものの、学生は自費で来広している。現在まで継続的な学生交流が行われているのは、お金ではなく充実したプログラムを提供するという姿勢が受け入れられているからだろう。

なお、2009年には広島シンガポール協会の田村会長(当時)に、シンガポール政府が新設したシンガポール外務大臣賞の第1号が贈られるなど、広島シンガポール協会の学生交流への継続的な取組みは、シンガポール政府からも高い評価を受けている。

### 3. 広島の未来へー多様性・ビジョン・行動力へー

成熟した豊かな社会になると、ジタバタすることは格好悪く、耳の痛いことや角の立つようなことはせず、スマートに要領よく過ごすようになる。しかし、現在の豊かさは過去の努力の成果であり、新たな変化を生み出さなければ未来を創り出すことなく過去の蓄積を消費するだけに終わってしまう。シンガポールには、この「成熟社会の制度疲労」に対する強い危機感があり、自己変革能力が感じられる。

変化には敵がつきものであり、うまくいかないのが当たり前でもある。めざせば叶う訳ではないが、めざさなければ何も始まらないし、助走のないジャンプはない。「お山の大将」に終わらず、「前例踏襲」や「箱庭の完璧主義」ではなく、変革と創造にチャレンジしていくことが求められている。

シンガポールのような、多様性を受け入れ、ビジョンを描き、変革を恐れない行動力を、広島も学んでいきたい。めざす姿を描き具体的な行動を継続していくこと(ビジョン:国と地域の未来の違いを考える)。「To Have or To Be」何を持っているかではなくどう行動しているのか、が大切である。また、違いを認め受け入れ、尊重する社会であること(多様性:よそ者に優しい広島)。そして、環境変化に対応し実際に変革を生み出していく取り組み(行動力:変革を応援し、未来を創り出す広島)が大切である。

さらに、「ひろしまの2つのシンボル性」である、人類史上初の原子爆弾による破壊を経験した地としての核兵器廃絶への信念と、原子爆弾による廃墟から復興した地としての「復興への確信と未来への希望」を、世界に提供する広島でもありたい。

シンガポールで感じた活気を広島にも取り入れ、また、広島から世界にも発信していきたい。広島のグローバル化やチャレンジを生み出す原動力となれるよう、広島の未来に貢献できる広島シンガポール協会を目指して、引き続き活動を続けていきたい。



#### 【講師からのメッセージ】

21世紀の日本の社会が求めているのは、変革と創造であり、それを実現する個人の静かな迫力ではないかと考えています。群れになって人と同じ行動をし、手の届く範囲の世界で生きていくというのではなく、変革と創造の過程で周囲と違うことに取り組んでいく孤独に耐えて、新たな領域に踏み出していける人材が求められているように思います。

破壊や捨てることのできる強さも時には必要になります。同時に、ビジョンを共有する仲間も大切です。そして何より、人と社会に対する豊かな感性が求められています。



## 講演会・懇親会アルバム



▲乾杯のご発声：  
広島大学 原田同窓会長

第9期生のモハメド・ナスル・  
エクラム・ビン・マクモンさんに  
支援金・花束の贈呈



懇親会の様子(講師の橋本康男氏とともに)▶

講演会には、約340名の方々にご出席いただき、坪井会長の挨拶により幕を開け、まず最初に、日本語研修留学生奨学金制度第9期生として1年間頑張ってくられたモハメド・ナスル・エクラム・ビン・マクモンさんに、支援金と三原国際外語学院日本語科進学1年コースのご卒業をお祝いして、花束が贈られました。

### 奨学金制度第9期生

## モハメド・ナスル・エクラム・ビン・マクモンさんがご卒業されました

三原国際外語学院で1年間、日本語研修留学生奨学金制度第9期生として日本語を学んでこられたモハメド・ナスル・エクラム・ビン・マクモンさんより、当協会の皆様へメッセージをお預かりしました。(一部抜粋)

この広島奨学生プログラムでは、日本語だけではなく、日本の歴史や文化なども学ぶことができました。また、学校で色々な国からの学生たちに囲まれて、交流して、様々な国の考えや日本以外の国の概念なども勉強することができました。日本研究の学生である私にとって、日本がどのような国かという他の学生の意見や経験を聞くことで、自分の勉強にも役立ったと思います。

しかし、留学生の生活はいつも楽しいわけではなくて、実際は茨の道でした。家族は遠くにいて、特に、辛いとき、その悲しさをより深く感じました。例えば、時々自分の学力に対して疑心暗鬼になり、「試験はできるかな、日本語が上達するかな」と考えていました。ですが、アドバイスを親切にくださった周りの皆さんや先生方のおかげで、人生における成功とは成績だけで評価するものではないので、結果から学び、努力を続けることが大切だということ学びました。一生忘れられない良い経験になりました。

シンガポールに帰ると、大学で一学期の勉強が残っていますが、12月に大学を卒業したら、ジェットプログラムに申し込んで、英語の先生としてまた日本に戻りたいと思います。これからもずっと日本語の勉強を続けます。広島シンガポール協会からこの貴重なチャンスを頂いたことに心より感謝しています。ありがとうございました。



事務局では、本会報を充実した楽しいものにするため、皆様の寄稿をお待ちしております。  
住所・氏名・電話番号を明記の上、事務局までお寄せ下さい。